

社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

いとしご増刊

きずな 絆

第85号 3月号
発行2005年 3月10日



購読料1部 100円
会員は会費に含まれています。

発行人：社団法人日本自閉症協会

編集人：社団法人日本自閉症協会 奈良支部

支部長&事務局：河村舟二

〒639-1005 大和郡山市矢田山町 84-10

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

奈良県 年月 自閉症 発 達支援 —発足

奈良県は2005年2月21日新年度の当初予算案を発表しました。2月22日の各新聞によると、奈良県の自閉症・発達障害支援センターについては、奈良市内にある仔鹿園を委託先に決定しました。早速、このことについて23日、日本自閉症協会奈良県支部の役員5名が参加し、奈良県福祉部障害福祉課と話し合いを持ちました。

支部がこれまで示したりハビリセンターなどの案も検討された結果、やはり、県条例等で制約も多く、運営のことを考えてこうなったとの説明がありました。柿本知事もこの自閉症・発達支援センターを優先すべき事業と職員に指示をされたようです。具体的な内容はこれからです。近々県呼びかけで検討委員会が開かれ、奈良県支部も招集されます。このセンターが来年（2005年）1月に開設することは決定していますので、我々の意見や要望も急いでまとめなければなりません。自閉症児を抱えるご家族の皆様には、日々の療育・支援・生活におわれ、お忙しいことと思いますが、やっとこ

ここまできた自閉症に対する支援への芽です。自閉症児者および発達障害児者の存在が理解され、暮らしやすい奈良県にするため、この支援の芽を将来に向かって大きく育てるためにも、総会をはじめ、今後の各支部の活動において、このことが話し合われますので、会員の皆様の積極的な参加とご協力をよろしくお願いします。

☆マスコミ記事から
支部長 河村舟二

○主な新規事業福祉・子育て◆自閉症・発達障害支援センター 知的障害児通園施設「仔鹿園」（奈良市）に06年1月、自閉症や発達障害者の相談を受けたり家族の研修をしたりするセンターを開設（670万）朝日新聞

○県が平成17年度当初予算案に盛り込んだ主な新規事業は次の通り。分類は県新総合計画などに基づく重点施策配分による。【障害者福祉の充実】の項目に自閉症・発達障害者支援センター運営事業（七百万円）が上げられておりその他に・障害者長期計画二〇〇五の推進（二百万）・障害児タイムケア事業（五百万）・心身障害者施設整備計画のうち知的障害者のデイサービスセンターを新たに三施設、通所授産施設一施設、福祉ホーム一施設・精神障害者社会復帰施設新たに二施設に補助する計画が示された。（奈良新聞による）

☆自閉症・発達支援センター設置に関する経過

2002.7.17 奈良県知事あて要望書18項目提出
2002.9.10 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長 自閉症・発達障害支援センター運営事業の実施について 同 自閉症・発達障害支援センター運営事業の実施についての取り扱いについて
2003.2.7 知事・福祉課長宛要望書の回答について督促
2003.3.18 奈良県教育長宛要望書について

のお願いとして回答督促（返答無）

2003.3.25 アクト大阪開設記念講演会 エル. 大阪
2003.8.31 臨時役員会 郡山福祉会館
2003.9.3 県福祉部との話し合い
2003.12.8 萩の杜見学
2004.1.17 拡大役員会 田中氏より奈良自閉症・発達支援センター（仮称）連携概念図（案）提示
2004H16.2.5 県福祉部との話し合い（県庁5階）「奈良県における自閉症・発達障害者支援セン

ターについて」要望書提出

- 2004.2.29 アスカ設立記念 高機能自閉症親の会
大阪・奈良合同交流会
- 2004.9.27 奈良県福祉部との話し合い
- 2004.12.3 発達障害者支援法成立
- 2005.1.15 具体的な施設等はまだ決めていない（三毛課長）
- 2005.2.21 奈良県新年度当初予算発表 自閉症・発達障害支援センターは「仔鹿園」奈良市に設置を決定



県福祉部との折衝

☆2005年2月23日午後1時から自閉症協会奈良県支部役員5名が参加し奈良県福祉部障害福祉課と話し合いを持ちました。以下はその時奈良県支部が示した内容です。

○奈良県福祉部障害福祉課との話し合いレジメ

☆朝日新聞（2005.2.22朝刊）の奈良版p28「県新年度当初予算案」中の主な新規事業の「福祉・子育て」「自閉症・発達障害支援センター」（同内容記事22日奈良新聞）

◆自閉症・発達障害支援センター＝知的障害児通園施設「仔鹿園」（奈良市）に06年1月、自閉症や発達障害者の相談を受けたり家族の研修をしたりするセンターを開設（670万円）。

☆要望

●実質的に機能し発展していくセンターに
●センターの運営にあたっては、発達障害者支援法第3条第3項を尊重して欲しい。（保護者との意思疎通）

●設置が義務づけられている連絡協議会だけでなく、センター運営評議会を設置して、必ずメンバーに入れて頂きたい。

（構想：平成16.2.5付けの知事、課長宛自閉症協会奈良県支部要望書に示してい

ます）

☆自閉症・発達支援センターで実施することが必要と思われる具体的支援業務（別紙）

○全国を眺めた形態として親たちが（運営・利用者・監視）ものが考えられ、a. 支部が支援センターする

b. センターの理事等に親たちが入る。

c. 支部は連絡協議会メンバー

d. 利用者のみ。などの係わり方がある。

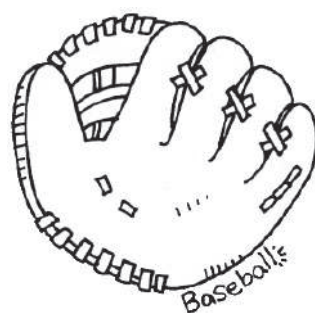
○奈良における自閉症・発達障害関係団体には、川西LDの会・パンジー（LD親の会）・ポップコーン（ADHD）・以和貴会ゆらくの里（HUG）・アスカ（奈良県高機能自閉症児者会アスカ）・重症心身障害児（者）を守る会・手をつなぐ育成会・自閉症協会奈良県支部・その他がある。センターの運営・情報等はこれら全てに開かれたものとなるように。

○センター業務のうち、相談の内容には1医療的2臨床心理的3親の相談4教育関係
が考えられる。3の内容は我々が中心となつて出来るのでは。

◎日本自閉症協会奈良県支部が担えることとして1. 親の相談2. 自閉症の啓発3. 関係団体のとりまとめ窓口はできるのでは。

★「奈良県障害者長期計画2005」にも「生きる」にかかわって、奈良県に

も自閉症・発達障害者支援拠点ネットワークづくり検討委員会の発足をお願いしたい。（別紙大阪府の資料参照）



☆奈良県の自閉症・発達障害者支援センターで実施することが必要と思われる具体的支援業務 (※本年度日本自閉症協会近畿ブロック会議で示された資料を基にしている。今回の奈良県福祉部との話し合いの際資料にもしている) ◎相談支援 あらゆる支援の窓口になるところ 支援センターの存在について情報発信する(HP作成) 発達障害に詳しい相談員が対応(電話相談の充実、面接、障害の判定) 学校、病院、職場等からの要請に応じ、対象者への働きかけ等助言 適切な他機関の紹介、他機関との連携(児童相談所、知的障害者厚生相談所、病院施設、ハローワーク、人権擁護等) 気軽に相談できる人の確保とその場所 保健婦も、単に発達面のみを見るのではなく、色々な面から少しでも発達に疑いのある子には、医師の診断を受けるように促す体制子どもに対しての問題や不安や悩みを、気軽に聞いてもらえ、具体的なアドバイスをしてもらえるような場所子どもたちの居場所となるスペース 支援センターの存在を広く伝え、先になる事があれば、簡単な手続きで気楽に相談できるように福祉サービスの紹介。家族・学校・地域・療育現場をコーディネート				
ネットする中心的な立場になってほしい フォーマルな検査の実施(PEPなど) 臨床心理士⇕療育支援 定期的な相談 家族、保育士、施設職員、教師から困っている相談を広く受け付ける。 専門医・心理相談員・経験豊富な教師などへ紹介する本人相談の実施。保護者相談。学校、保育所、施設等への巡回相談実施。 相談機関の周知。相談機関の連携強化・啓発(例えば民生委員)福祉・医療・団体等々の情報提供(連絡・連携・紹介)、本人告知後のケア(医師との連携) 日常生活に係る様々なことの相談(身近自立のこと、コミュニケーション、余暇、社会性、学習面、行動上気になること、子育て、学校や職場でのことなど)への対応福祉制度やその利用の仕方、訓練等の専門機関、当事者団体や勉強会など、必要な情報の提供 診断等への相談について医療との連携 電話・来所・訪問の3タイプ ◎療育支援 発達障害の療育プログラムの開発・研究 指導員の育成(学校、施設職員、ボランティアの学生等に対する研修) ひとりひとりに合わせた個別指導計画の作成 保護者、担任や職場の上司も参加しての				
療育(認知、SSTなど) どのように接すれば良いのか、どのようにほめて育てればいいのかというような、細やかな接し方、育て方のノウハウ伝授 各種専門家からの具体的指導 医療、療育機関や医師等を紹介してほしい。 LD、ADHD、高機能自閉の診断評価にかかわってほしい。また、書門家の先生を置いてほしい。 早期療育の必要性を伝え、自閉症の子供へのその子に合った具体的な支援の方法などアドバイスする。 定期的にセンター利用し、学校や医療機関などと連携を取りながら療育できるようにする。医療機関・言葉の教室・他の療育機関の間の掛け橋になって、ネットワーク作りの中心になってほしい。 グループ活動し、他児とコミュニケーションを図る。 回数限定・期間限定した直接的アプローチ(セラピスト・心理士による) 療育施設への広報・啓蒙 療育手帳・福祉制度の紹介 4回シリーズで子どもに構造化した部屋で療育指導を実際行い、家庭や保育所でどうすればよいかを見学・習得してもらう 教員・指導者研修。早期発見・早期療育				
開始のための対策。 研修会の実施。関係機関の情報の共有化の働きかけ。 圏域毎の医療体制整備の働きかけ。療育体制の一貫性の実現。 ショートステイ・デイサービス事業の充実。 啓発、研修(セミナー・個別訪問) 個別指導、療育訓練実施施設の紹介 個別支援計画作成(生涯カルテ) 診断後の短期集中指導 心理検査等により客観的評価を行う 家庭での療育方法への助言 個々に応じた療育や教育、支援の具体的な手立てについて支援 保育所や学校などと連携をとった支援(場合によっては巡回相談や研修会の実施) 保育所、学校、就学前の療育機関、地域で自閉症児支援を展開している団体などへのコンサルテーション、事例検討会への参加 ◎生活支援 年金や各種サービスについての情報提供 サークル活動等他の陣書者との出会いの場の提供 発達障害について広く県民(特に病院関係者、学校等、警察、弁護士、商店など)に理解してもらう機会を作る 障害者が犯罪に関与した時に、本人支援				

の立場で協力する。 集団生活が困難ゆえ、家族の負担・苦勞が多いため、子どもの特性を理解してくれるボランティアによる支援の提供 障害者スポーツセンターを新設、又は、現在の障害者が使える施設をもっと使いやすくして、提供 人とのコミュニケーションが苦手な子どもが多いので、指導員のもとでの交流の場や行事を定期的に企画 家庭生活や地域生活をおくる上での支援の方法及び、どんなサービスを受けたら良いか示す。 サービスの向上など福祉機関と話し合う 家庭訪問による指導（家庭の中での構造化、環境整備などの指導） 一般市民への自閉症についての理解を深め、独立した生活ができるようになるような支援 ヘルパーのような人材が豊富にないと生活支援は困難である。既存の事業所への指導、講習会開催が現実的である 歯科、外科、内科、小児科等診療可能な医療マップの作成・開拓。 余暇活動支援。本人への24時間対応。 福祉制度の啓発。更生施設の増設。 ボランティア育成事業の市町村への働きかけ。 防災・避難対策の充実。消防・救急医療対策と啓発（消防学校）。警察との連携・	啓発。 啓発、研修（セミナー・個別訪問）：警察・消防所・事業所（障害児（者）地域療育等支援事業所との連携） 本人支援（余暇活動等） ショートステイ、デイサービス、レスパイトサービス、ホームヘルプ、学童保育 自閉症の人たちのバリアフリーを推進するためのコーディネート 緊急時対応（一時保護）への対応 ◎就学支援 学校関係者に発達障害についての研修の場を設ける。 就学の際、該当児童が必事とする支援について情報提供する 就学後、学校側と連携して発達学習を支援する。 学校側が該当児と判断した児童・保護者に対して改めて面接・支援が必要であれば話し合っていく 障害特性に理解ある教師の育成 学校との間に入り専門的な立場の意見を学校側に伝えるバイパス的な役割 学校や社会への軽度発達障害の子どもたちのことを啓発し、理解を求める活動 その手に適した教育が受けられる様に、いろいろな学校を紹介する。 判定機関・就学先・保護者との間の調整役として、保護者に可能な限りの情報開	示と就学先への啓発・教育 センターの職員がいろいろな学校に出向き、その学校の自閉症の生徒への指導をきちんと把握する。 就学先で混乱無く過ごせる環境作り 学校への援助 教師への具体的な指導とスーパービジョン 教師同士の情報交換の場の提供 教師への講習会の開催 就学前12ヶ月前くらいから、家族の不安に伝えるべく、学校体験入学など情報を伝え、就学指導委員会にも家族に近い立場で子どもの情報を上申する。 就学説明会実施を市町村への働きかけ。 学校間交流。教職員の実習・研修・交流。 就労実習の早期取り組み（支援費制度の活用）。 専門学級の設置。専攻科の設置。 啓発、研修（セミナー・学校訪問） 教育相談 就学前相談・指導・啓発・研修 就学や進学に伴う相談 個別的教育支援計画への援助 ◎家族支援 発達障害についての正しい知識と理解をもってもらう 悩みや困っていることを聞き出し対応できることはしていく 障害者にふさわしい家の間取りや家具の配置などのアドバイス	家庭のある障害者の様々な相談にのる 家族会への支援 講演会等で専門家の意見を聞く機会の確保 発達障害についてわかりやすく教えてもらえるような、講座、講演の保護者向け定期的開催 軽度発達障害の子どもが年々増える傾向にある。各地域に積極的に働きかけてもらい、親の会を組織する支援をして欲しい。 協会・親の会・自助グループなどの中継点としての機能 社会資源の紹介とコーディネート 保護者同士の交流・保護者のカウンセリング・兄弟の心理的援助・勉強会の開催 家族を含んだ余暇活動の提供 自助グループ結成援助 引きこもり、不登校に対する外出機会の設定、母親同士の勉強会、父親の勉強会への参加、同胞に対するケアなどを行う 長期休暇中の保育支援・保護者の就労支援。経済支援（含む制度・施策の啓発）。ファミリーサポート制度の活用（5万人以上の都市） 住宅支援（公営住宅・増改築） 診断後のメンタルケア、同居家族への障害理解、指導・助言 個別訪問・指導 ◎就労支援
--	---	---	--

ハローワークへの紹介、障害者職業センターやジョブコーチ制度へのつながり

職場等で発達障害についての研修時間を設けてもらい、話をしていく

生涯教育という面で、余暇活動、専攻科・オープンカレッジなど、少し先行く指針

の保持と提供

「ここに行けば、たいていの事はわかる」といえるような生の情報の提供

自閉症の人が働ける職場の紹介

就労後のアフターケア

就労先の開拓・調整

児が職場になれるまでのパートナー

作業所とのネットワーク作り

行政・関係機関への働きかけ

企業への自閉症についての啓蒙

企業がどんな求人をしているか、常に情報収集、提供

養護学校・進路指導に障害者就労セン

ターとともに出席し、学校教育と実社会との橋渡しを行う。

企業情報並びにそのネットワークの構築。雇用可能な企業の開拓。企業への啓

発。

ジョブコーチの育成支援。

雇用対策事業の紹介。

啓発、研修（セミナー・個別訪問）…企業、作業所、

（障害者就業・生活支援センター、障害者職業センター、ハローワークとの連携）

ジョブコーチ、企業・作業所訪問
雇用主からの相談

働きたいという方への相談・支援

雇用している事業者からの相談

障害者職業センター、ハローワークとの

連携

職業計画、職業準備訓練、ジョブコーチ

支援事業、雇用管理サポート事業などの

活用支援

作業所、グループホーム、授産施設等と

連携しての福祉的就労支援

◎普及啓発と研修

「自閉症」や「発達障害」について、障

害の正しい理解や支援の方法を広めるた

めの研修を行う

福祉、保健、医療、教育、就労など関係

する方々の専門性を高めるための研修を

行う

より暮らしやすい地域社会づくりのため

の情報提供や広報、研修による啓発活動

を行う

リーフレットやガイドブックの作成・配

布

自閉症や発達障害関係の図書や、資料の

貸し出し

ホームページ上での情報発信

☆以上以外に奈良県で特に必要なことも

多々あると思います。是非、会員各位の

ご意見を支部の役員や事務局にお寄せ下

さい。（河村）

療育部施設見学

3月1日（火）、療育部で施設見学に行つてきました。見学先は橿原市東竹田町の「杜のイルカ」。参加者は11名でした。

感想「杜のイルカを見学して」

岩崎めぐみ

のどかな田園風景のなか、パステルカラーの可愛い配色の外観は、そこで暮らす人々の穏やかな幸せを感じさせ、館内の見学へ：利用者のお一人がにこやかにお出迎えして下さいな、パン工房から作業室、居住スペースと案内して頂き、中心にはそれらを結ぶ多機能なホールがあり、暮らしを考えた空間が広がっていました。地元の方の反対が多かったなか、話し合いを重ね、色々努力され、今では地域住民との交流も多く、災害時の避難場所にもなっていて、地元密着の安心感ある施設だと感じました。最後に、パン工房の焼きたてパン美味しかったです☆

軽度発達障害の日米交流会に参加して

☆1月20日 デイジー主催

広汎性発達障害の当事者で 本も出版されているステイブ・シヨアさんとアメリカで自閉症支援に取り組まれているブレンダ・スミス・マイルグさんのお話を聞きました。

シヨアさんは 2才まで言葉も出なかったのですが 両親や専門家の先生方の熱心なサポートで今の自分があると言われ 私も見る限り 通訳の方に気配りをされている姿は 紳士的で 自閉の部分はいくつも感じる事はありませんでした。

そこに アメリカの障害児支援のすごさを感じてしまいました。

そして 感覚的侵害 五感に感覚過敏の人や感じる事が弱く難しい人がいて そのつらさなども語られました。

私も 子供がいつもどのように感じているのか 分かってあげることが出来ればと思っていますが・・・これが難しい・・・シヨアさんは 成長と共に 少しずつ適応して来られたそうです。

今日、私達が目指している障害児特別支援が アメリカではどのような子でも、普通教育にも有効であるという基本体制に大きな違い（遅れ）を感じてしまいました。日本も少しずつ近づいて行け

れば 子供達が住みよい環境になる・・・と願いました。

最後に 余談ですが 英語力が皆無の私は チンプンカンペンで自閉症の人ってこんな気持ちなのかな・・・(モンモンとした)と感じ 通訳の方の有り難さもあり サポート支援があれば安定する事も身を持って実感しました。

(療育部 山上)

3月

9日サロン川西に参加してきました。

サロン川西については先月号の絆で支部長から説明がありました。

前回も役員3名と支部長での参加でしたが今月も支部長、渡邊さん、上島さん私 田中で参加してきました。支部長から2月に県の予算案で判った、自閉症・発達障害者支援センターが子鹿園に・・・の説明を下さいました。

他の会の方もあまり情報がなかったらしく、いろいろな意見が出ました。

自閉症協会だけでなく、他の発達障害の方たちにも利用しやすいような支援センターになるように、連携して意見を出していければ・・・という話になりました。サロン川西はどんな方が参加してもOKだそうです。

興味のある方、参加されてみませんか？次回は4月20日(水)です。

(療育部 田中 康子)

「MMR」

ワクチンと自閉症とは全く無関係である」という結論がもっとも妥当であるということが証明される！

横浜市総合リハビリテーションセンターの本田秀夫先生、清水康夫先生から協会へのメールです。日本自閉症協会ホームページのトピックスに掲載されています。

<http://www.autism.or.jp/report/20050307yokohamaham>

日本自閉症協会御中

横浜市総合リハビリテーションセンターの本田と清水より、ASJにご報告していただきたいことがあり、メールを差し上げます。

私も最近行いました自閉症の発生率に関する研究が、イギリスの Journal of Child Psychology and Psychiatry 誌に受理されており、あと数ヶ月で出版される予定です。ところが、この論文が紙の雑誌に先んじて2月後半に同誌のオンライン版に公開されたところ、今週になってイギリスのメディアでかなりの反響を呼んでおります。

この研究の概要について、少しだけご説明いたします。「歳児を対象としたMMR(はしか(measles)、おたふくかぜ(mumps)、風疹(rubella))という混合ワクチンがございます。世界の主要な国

のほとんどで行われておりますが、日本だけは1989年から1993年の間のみ行われ、その後中断しております。中断の原因は、ワクチン中のおたふくかぜワクチンが原因と思われる無菌性髄膜炎が多数報告されたからでした。日本とは異なるおたふくかぜワクチンが用いられていた他の国ではそのような副作用がなく、現在までMMRワクチンが接種されております。ところが、1998年にイギリスのある研究グループが「MMRワクチン接種が自閉症を引き起こす」という仮説を Lancet という権威ある雑誌に

載せたことから、主としてイギリスとアメリカではMMRワクチンの糾弾運動や、MMRワクチンが原因でわが子が自閉症になったとする親からの訴訟が起こるなどの社会問題となっておりました。

私も、わが国でMMRワクチンがいったんは行われ、その後で中断されたというところに注目して、1988年から1992年生まれ(つまり、一歳でMMRワクチンを受けている子どもが含まれる)と1993年から1996年生まれ(MMRワクチンを受けている子どもが全くいない)とで自閉症の発生率に違いがあるかどうかを調べました。もしも

MMRワクチンが自閉症の原因になるのであれば、前者の方が自閉症発生率が高く、MMRワクチン中断後は自閉症は

減っているはずですが、ところが結果はまったく逆となりました。MMRワクチンが中断された後に生まれた子どもたちの方がむしろ自閉症の発生率が高いという結果になったのです。自閉症の診断例が増加しているというのは、いまや世界中でみられている現象ですが、これは真の増加である可能性の他に診断基準の拡大や自閉症にたいする専門家の感度の上昇などが要因として考えられます。イギリスやアメリカでは、MMRワクチンが本格的に導入された1980年代後半から1990年代いっばいにかけて自閉症が増加しているため、疫学データではMMRワクチンと自閉症との関係を完全には否定できずにおりました。ところが私どものデータでは、MMRワクチンをやめてもイギリスやアメリカと同様に自閉症発生率は増加の傾向を示したわけですから、これらをあわせて考えると、「MMRワクチンと自閉症とは全く無関係である」というのが最も妥当な結論となります。

なお、この研究を進めている途中で、ちょっとした縁でイギリスの Michael Rutter 先生に共同著者として加わっていただくことができました。

さて、この論文がオンライン版で公開された後、イギリスの New Scientist という科学系の週刊誌の記者から取材を受

けました。その雑誌が3月3日に発売されたところ、今度はBBCテレビからインタビューを受け、それが同日のニュースで放映されました。同時に、多くの新聞等のメディアでも取り上げられ、現在かなり話題となっているようです。イギリスの Department of Health や National Autistic Society (NAS) もコメントを出しております。ASJにも今後何らかの形でこの話題が届くかと思いついて、あらかじめお伝えしておく次第です。

以下に、この論文を取り上げた New Scientist、BBC、NAS のウェブサイトのアドレスを貼付しておきます。よろしければ、ご覧いただければ幸いです。

New Scientist

<http://www.newscientist.com/article.ns?id=dn7076>

BBC (最後の方に Department of Health のコメントが載っています)

<http://newsvote.bbc.co.uk/1/hi/health/4311613.stm>

NAS <http://www.nas.org.uk/nas/jsp/polopoly.jsp?d=253&a=6667>

末筆ながら、皆さまのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

横浜市総合リハビリテーションセンター
発達精神科 本田秀夫、清水康夫

どなたか、いい教材知りませんか！

はじめまして突然のメールで失礼いたします。

私はドイツにて日本人幼稚園の教諭をしているものです。今担当しているクラスに（6歳児クラス）に女の子の自閉症の子どもがいます。クラスの子ども達は彼女を温かく見守ってくれています。

今のところ子ども達には特に彼女が障害を持っているとか自閉症であるとか言う話はしていません。

しかしそろそろ絵本や紙芝居などの教材を使い障害を持つ子供達を少しでも理解してもらいたいと願っています。

日本に居れば沢山の絵本の中から今の子供達に合った教材を自分なりに探すことも可能だと思うのですが、今現在教材を探すことが出来ないの

でメールさせて頂きました。一般的でかまいませんので様な状況で6歳児に向けて読み聞かせられる

絵本や紙芝居がありましたら紹介して下さい

勝手なお願いで申し訳ありません。

松木亨子

kyoko_matsuki@yahoo.co.jp

☆事務局から

○日本自閉症協会奈良県支部役員会 日時：2005年4月2日（土曜日）

午後1時30分から5時まで 場所：大和郡山福祉会館2F会議室

内容：1. 支援センターについて

2. 総会準備について

3. その他

○サロン川西

日時：4月20日（水）午前10時～12時

場所：前回同様教育研究所障害児教育部（奈良リハビリテーションセンター東側から入る）

○4月23日（土曜日）

日本自閉症協会奈良県支部総会（午前10時）と講演会（午後）やまと郡山城ホール

○4月26日（火曜日）

つながり際際実行委員会

○5月15日（日）

つながり際（奈良教育大附属小）

○5月15日（日）

日本自閉症協会総会（子3もの城）東京

○よこはま発達クリニック2005年夏のセミナー『自閉症スペクトラムの理解と支援』

1. 2005年8月6～8日【会場】昭和女子大学詳細 <http://www.autism.or.jp/autism/4-index.htm>

○よこはま発達クリニック

平成17年度・前期夜間講座

《講座1》TEACCH基礎講座：自閉症とTEACCHの基本を理解するための講座

【対象】* TEACCHに関する予備知識がほとんどない方。保護者、専門家、学生など、どなたでも受講可能です。（定員18名）E-mail：info@ypdc.net

ホームページ：www.ypdc.net

○よこはま発達クリニック 平成17年度・前期夜間講座

《講座2》TEACCH中級講座—TEACCHを正しく理解するための講座

【対象】* TEACCHや自閉症の基礎的事項を理解していて、日常、自閉症の人の支援を実際に行っている専門家：医師、心理士、ST、OT、教師など。

（定員18名）【応募・連絡先】〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央7-7レス

ターテ港北2Fよこはま発達クリニック（事務局担当：新留理江子）電話：045-942-1077 FAX：045-942-1099

E-mail：info@ypdc.net ホームページ：www.ypdc.net

◎会員のみなさんは本部総会の委任状ハガキは必ず出して下さい。1月号の会報「いとしご」に添付されています。

平成 17 年 3 月 1 日

会員各位殿

社団法人日本自閉症協会奈良県支部

支部長 河村舟二

平成 17 年度定期総会について

平成 17 年度定期総会を下記の通り開催いたします。つきましてはご多用の中誠に恐縮でございますが、是非ご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 平成 17 年 4 月 23 日 (土)
- 2 場 所 やまと郡山城ホール 小ホール
奈良県大和郡山市北郡山町 2 1 1 番地の 3
電話 0 7 4 3 - 5 4 - 8 0 0 0
- 3 日 程 9 : 3 0 ~ 1 0 : 0 0 総会受付
1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0 総会

* 総会時保育あります。保育費 5 0 0 円徴収

保育希望者は療育部 光野まで連絡してください。4 月 7 日まで

TEL&FAX 0 7 4 2 - 7 1 - 4 0 8 8

午後より自閉症児者の自立生活支援指導者養成事業の第 1 回自閉症理解講座があります。

演題予定 「ありのままの子育て」

講師 明石洋子氏 社会福祉法人あおぞら共生会副理事長
明石徹之氏 川崎市職員

日程 1 3 : 0 0 ~ 1 3 : 3 0 講演受付
1 3 : 3 0 ~ 1 6 : 3 0 講演会

編 集 後 記

3 月に入り裏の雑木林から毎日ウグイスの鳴き声が聞こえるようになりました。春はそこまでやってきています。スペシャルオリンピックスは、あつという間に終わったような気がします。オリンピックスの本来の目的から考えると個人的にはもっと TV 中継もしてほしかったと思います。今年の花粉の飛散は昨年の 5 倍とか早く終わってほしいものです。



社団法人日本自閉症協会奈良県支部

「自閉症児者の自立生活支援指導者養成事業」第1回講演のご案内

テーマ「ありのままの子育て・ 自立への子育て
～地域で生きるを支える～」

講 師 明石 洋子氏 社会福祉法人あおぞら共生会副理事長

明石 徹之氏 川崎市職員

自閉症の息子徹之さんの子育てを通じ、積極的に地域社会とコミュニケーションを深められ、地域の中で息子徹之さんと前向きに生きてこられた明石洋子さん。その過程を紹介していただき、地域でその人らしい自立した生活を送るために必要な支援のあり方を考えていきたいと思います。

『超多動の徹之（現在、川崎市職員として働く）に振り回されながら、どう育てていいかわからず、涙に明け暮れていた頃から、地域に飛び出して試行錯誤しながら、地域に仲間や支援者を見つけていった過程を書きました。最初から強い親はいません。わからないだらけの自閉症児を抱えて、地域に飛び出すのは、足がふるえます。でも、勇気を出して最初の壁をひとつ乗り越えてみましょう。そうすれば、あなたはきっと感動に出会うでしょう。』（著書；「ありのままの子育て」ぶどう社 より）

日 程	平成17年4月23日（土）
時 間	受付 13：00～ 講演 13：30～16：30
場 所	やまと郡山城ホール 小ホール （ 奈良県大和郡山市北郡山町211番地の3 TEL0743-54-8000 E-mail：ykjh@ykhall.jp ）
定 員	300人
参加費	会員無料 会員外 500 円（資料代のみ）
申し込み	不要
問い合わせ	上島 FAX0744-33-4755 e-mail m-ueshima@k2.dion.ne.jp * 今回保育はありません。ご了承ください。